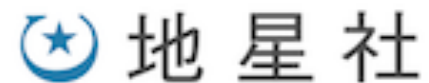


特定非営利活動法人 地星社

第10期 事業報告書

2021.4.1 - 2022.3.31



私たちが目指すもの(ビジョン)

私たちひとりひとりが地域づくり・社会づくりにかかわっていく社会の実現。

そのために私たちがすること(ミッション)

社会をよりよくする活動を行っている人や組織を支援し、増やしていく。

活動において大事にしたい原則

1. 信頼の原則

人や組織には、社会を変える力が本来備わっていることを信じ、その力が活かされるよう後押しする。

2. 互敬の原則

人を大事にし、互いに敬い合う関係性を築く。

①ポスト復興の県域の中間支援のあり方について、実践と議論を進めることができた。

2021年度より、県内4つの中間支援団体の連携で被災者支援コーディネート事業に取り組んだ。この事業を通じて、ポスト復興の中間支援のあり方について団体間の議論が進み、支援団体間のネットワーク形成を各レベル(市町村域・圏域・県域)でサポートしていくことについての共通認識を持つことができた。

②地域に根差した取り組みに一定の進捗があった。

名取では名取市協働提案事業に採択され、地域ライター講座を実施した。また、岩沼ではいわぬま創生ラボのワークショップ実施に協力した。これらの事業などを通して、地域に関心を持ち、地域でなんらかの活動を始めようとする個人や団体とのつながりも生まれ、地域参加・社会参加を増やしていくきっかけをつくることができた。

| 事業分野 | 事業／内容 |
|------------|-------------------------------|
| A 相談・個別支援 | 1. 相談・個別支援 |
| | 2. 復興庁被災者支援コーディネート事業 |
| | 3. 岩沼市市民活動サポートセンター活動支援業務 |
| B 人材育成 | 地域ライター講座 in 名取 |
| C その他 | 宮城県絆力交流事業、いわぬま創生ラボ、かく大學、講師派遣等 |
| 組織運営に関する業務 | 理事会・総会等の会議、会計・税務、労務、会員管理等 |

組織内外の課題への主体的な取り組みを支援しました。

事業の背景

震災後、新しく立ち上がった復興支援団体への個別支援の必要性を感じたことが、地星社をつくったきっかけの一つであり、設立当初から資金調達や法人運営、認定NPO法人取得などのテーマで継続的な個別支援を実施している。

このように、相談・個別支援は地星社の基本となる事業であり、現在は特に、地星社が依頼を受けて企画・実施する方法から、研修やワークショップをしながら支援先団体と一緒に課題解決について考える方法に変えて、団体の主体性を尊重するようにしている。

事業概要

目的

調査・計画づくり・評価等についての個別支援をすることで、組織基盤強化や課題解決を促進させる。

実施内容

依頼を受けて随時個別相談を実施。必要な場合は支援計画を立て、プロジェクトとして行った。

| 種類 | | 実施内容 | 担当 |
|------|---------------|---|-------|
| 相談 | | 個人や団体からの随時の個別相談に対応した。内容は、地域の魅力を発信したい高校生のグループの活動に対するアドバイス、子ども食堂の立ち上げについての相談、地域のつながりをつくるための集会所の開設についての相談など。 | 布田、赤川 |
| 個別支援 | (特活)いるか | 組織の経営に関する相談(8回)や、規程の策定について支援を行った。 | 布田 |
| | (特活)mia forza | 決算書の作成や認定NPO法人の取得に向けた準備などについて、相談支援(3回+メールで随時)を行った。 | 布田 |

成果と今後の展望

随時の個別相談については、すでになんらかの事業を行っているようなNPOよりも、地域で何か活動を起こそうとしている個人やグループからの相談が今年度は多かった。例えば、名取の高校生グループ「Re:」が地域の魅力を発信するための活動を行うにあたり、情報提供や話し合いのサポートを行った。

地星社の活動も、地域に根付いたものの比重が多くなることによって、こうした相談がより増えてくると想定される。他のさまざまな団体・機関との連携を強化しながら、地域の個人・団体の主体的な活動をサポートしていきたい。

ポスト復興の支援に向けて、中間支援団体の連携での取り組みを始めました。

事業概要

事業目的

被災者が安定的でよりよい日常生活を送ることができるようになることを目指し、復興の主体である被災者や被災者支援に取り組む多様な担い手(自治体・支援組織・企業等)による活動の推進を総合的に支援する。

事業の実施体制

本事業は、復興庁被災者支援総合交付金被災者支援総合事業の一環として行われた。宮城県においては、2021年度より(一社)みやぎ連携復興センターを申請主体とし、(特活)せんだい・みやぎNPOセンター、(特活)杜の伝言板ゆるる、地星社の4団体の連携で事業を実施した。

地星社では、統括コーディネーターとして事業の総合調整と、県南エリア担当の役割を担った。

事業内容

- ①巡回訪問による被災地域の社会課題・資源の把握及び整理
- ②被災地域の社会課題解決に向けたサポート
- ③協働体制構築に向けた各種ミーティングの開催
- ④復興・地域づくりレポートの発行と県内外に向けた情報発信

(担当:布田)

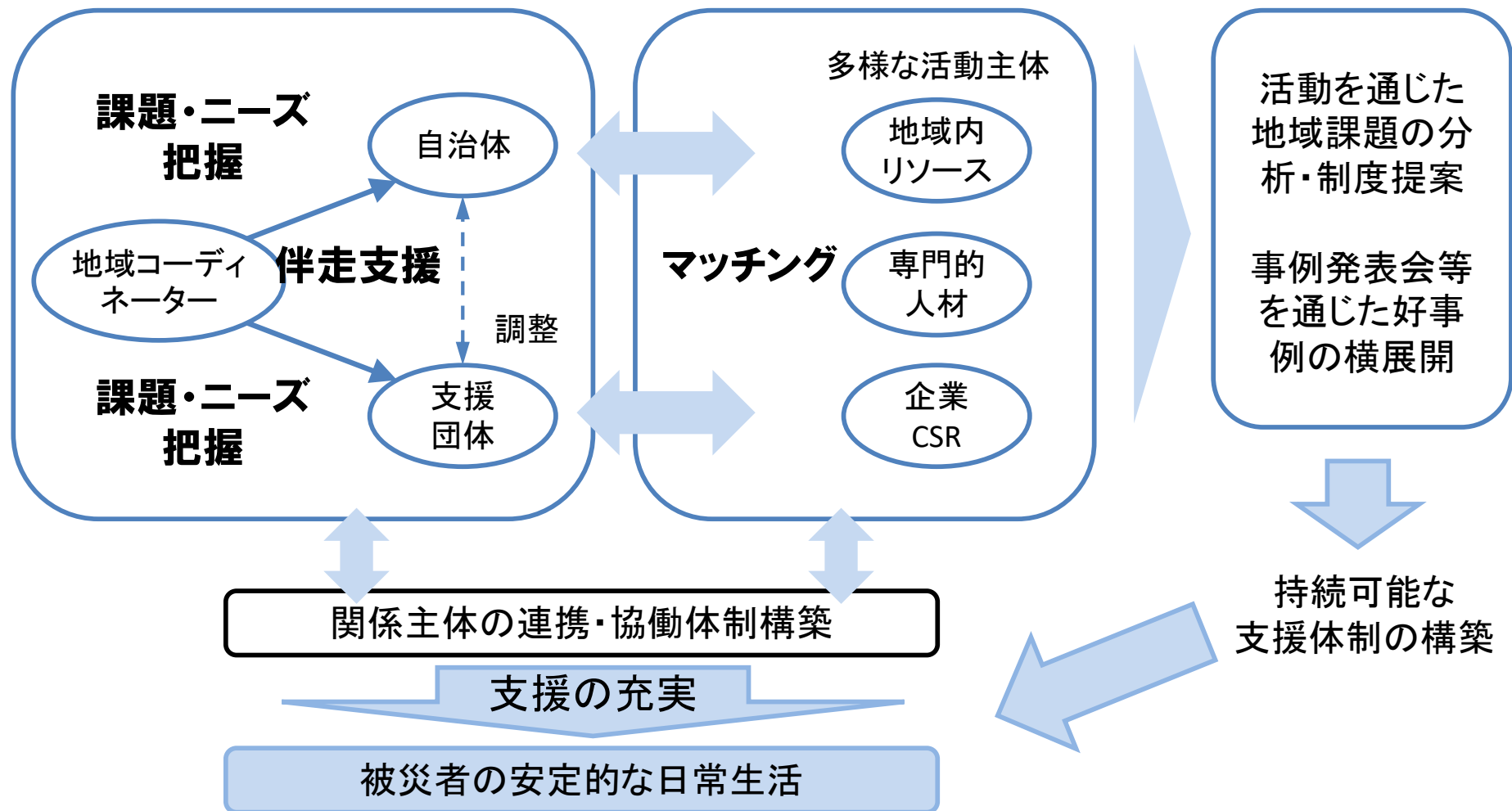
成果と今後の課題

県内4つの中間支援団体の連携によって、一つのプロジェクトに取り組んだのが画期的なチャレンジだった。

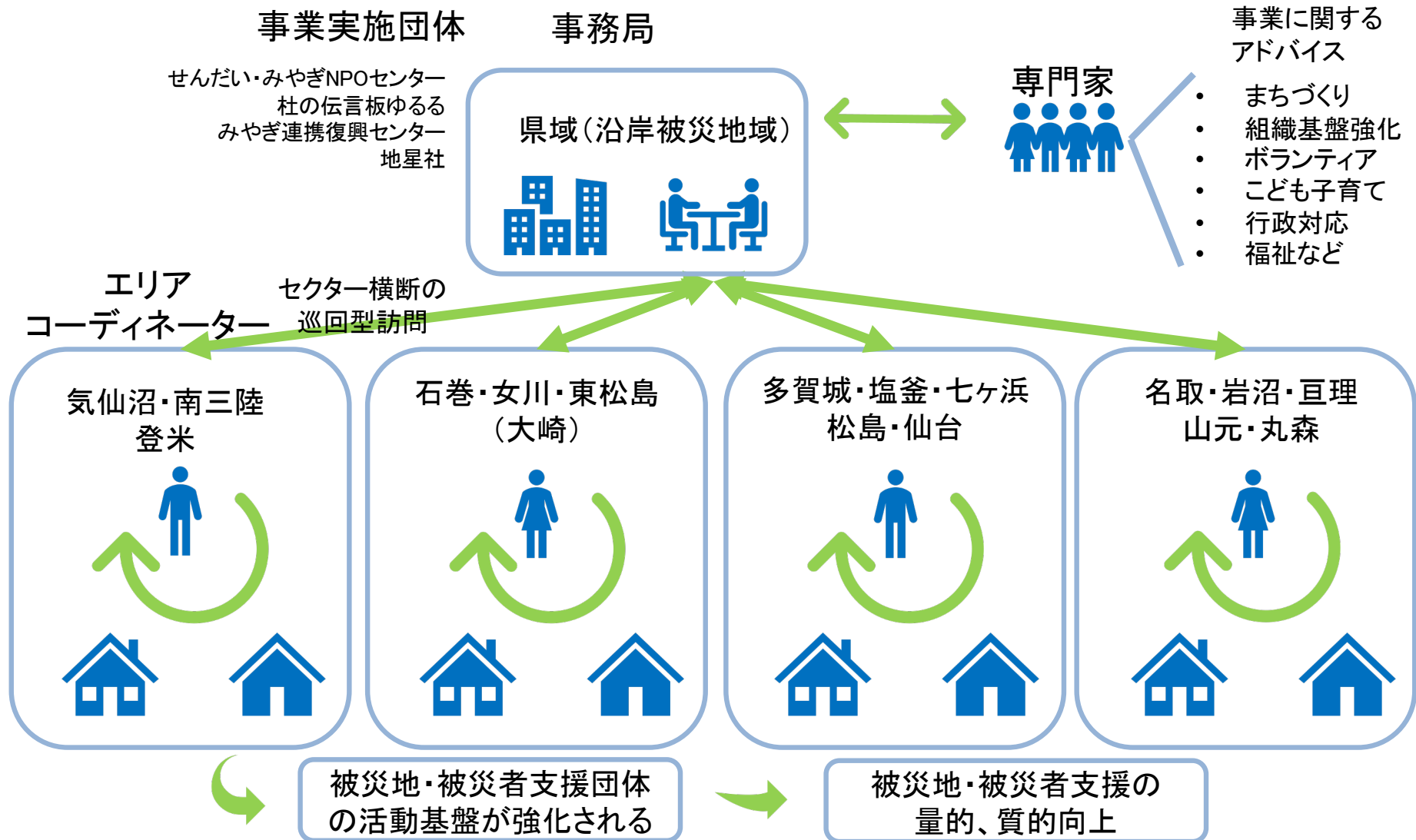
また、共同体制で個々のケースを検討することで、多様な視点での議論と、それぞれのネットワークや強みを活かした支援を行うことができた。

各地域の支援団体のネットワークともさらに連携していくことがこれからの課題である。

活動イメージ図



事業実施体制



事業概要

目的

市民活動相談(アウトリーチ活動を含む)を通じて、岩沼市内で地域活動に取り組む市民・団体が増えることと、団体が地域活動の取り組みで成果を上げていけるよう支援することを目的とする。

事業の実施体制

本事業は、岩沼市の委託事業として実施した。(特活)せんだい・みやぎNPOセンターも本事業を受託しており、必要に応じて同センターと情報交換をしながら事業を実施した。

実施内容

- ①市民活動団体を対象としたミニ研修の開催(年3回)
- ②市民活動団体を対象とした連携促進イベントの開催(年3回)
- ③市民活動相談の実施(年6回)
- ④アウトリーチによる相談の実施(年6回)

成果と今後に向けた課題

連携促進イベントはSDGsなどのテーマをきっかけに、それまで市民活動にかかわっていなかった人がイベントに参加するなど、市民活動への間口を広める効果があった。

岩沼では、いわぬま創生ラボ(C その他の事業・活動参照)でのワークショップをきっかけに新たな活動も生まれつつあり、そうした活動へのサポートに結びつけるのが今後の課題である。

| 種別 | 内容 | 開催日 | 担当 |
|------|---|--------|-------|
| 連携促進 | 地元企業と障害者就労支援施設の連携の事例紹介、企業との連携についてのディスカッション | 7月14日 | 布田、赤川 |
| 研修会 | オンライン会議の実施方法の講義と実践 | 8月18日 | 布田、赤川 |
| 連携促進 | SDGsの基礎についての講義、SDGsをもとに連携を考えるグループワーク | 11月24日 | 布田、赤川 |
| 研修会 | 会議ファシリテーションにおける場づくりの講義とワークショップ | 12月8日 | 布田、赤川 |
| 連携促進 | 災害時の課題と連携のあり方についてディスカッション | 1月12日 | 布田、赤川 |
| 研修会 | 会議ファシリテーションにおける傾聴と質問の講義とワークショップ(新型コロナ感染拡大のため中止、相談会のみ実施) | 2月9日 | 布田、赤川 |

ライター講座を通して、地域人材育成に取り組みました。

事業概要

目的

地域活動に関心を持つ人たちが、被災地を初めとする地域の課題や取り組みについて調べる・伝えるスキルを学び、実践する場をつくり、地域人材として活躍できるようにする。

事業実施体制

名取市市民協働提案採択事業として、市と協働しながら実施した。

実施内容

- ①地域ライター講座の実施(取材・記事作成の方法、写真撮影の方法等)
- ②地域ライターによる地域の魅力の取材活動
- ③地域の魅力を記事にしてホームページやSNSで発信

(担当:布田、赤川)

成果と今後の課題

受講者同士で名取の魅力を出し合うことで、市民目線で地域の魅力を記事にし、取材を通して新たな価値に気づくこともできた。また、受講者の中には本講座への参加をきっかけにさまざまな地域活動にも関心を持つようになった方もいて、地域での活動への参加意欲の向上につながった。

今後は、地域ライターの活動を継続的なものにしていくことが課題である。

実施スケジュール

| 日程 | 内容 |
|--------|--------------------|
| 6月 | 参加者申込受付 |
| 7月17日 | 講座第1回 地域の魅力を再発見する |
| 8月7日 | 講座第2回 取材の仕方、記事の書き方 |
| 9月11日 | 講座第3回 写真撮影の方法 |
| 9月～10月 | 地域の魅力の取材 |
| 10月16日 | 講座第4回 情報の整理の仕方 |
| 11月 | 原稿作成、第一稿提出・添削 |
| 12月11日 | 講座第5回 原稿の読み合わせ |
| 1月 | 原稿の修正、第二稿提出・添削 |
| 2月13日 | 発表会 |
| 2月 | 記事公開 |

講師

第1回担当 布田 剛(地星社代表)

第2、4、5回担当 谷津智里さん(編集者・ライター Bottoms代表)

第3回担当 福田沙織さん(スタジオフォトウィン代表)

参加者

12名の受講者と若干名の聴講者の参加で実施した。

取材先一覧

| 取材先 | 取材日 |
|---------------------------------|--------|
| 森高千里同好会東北本部 (たこ焼きイヴちゃん) | 9月22日 |
| うえまつ調剤薬局 | 9月25日 |
| 三浦農園(せり農家) | 10月3日 |
| 就労継続支援B型事業所テラグラッサ (株式会社ゼンシン) | 10月6日 |
| 仙台高等専門学校ロボティクスコース | 10月12日 |
| 名取市歴史民俗資料館 | 10月15日 |

講座の様子



第1回講座



第2回講座

取材の様子



三浦農園



名取市歴史民俗資料館

受講生の取材記事は名取市のホームページに掲載されました。



記事一覧

- 名取市協働提案事業「地域ライター講座」完成記事を発表します！
- ～田畑から愛をこめて～全自動殺虫システム稼働中！～セリ農家・三浦隆弘さん
- セリだけじゃないせり農家・三浦さん ～市民活動家としての素顔に迫ってみた～
- 香り立つスパイスで心と身体と地域を元気に！うえまつ調剤薬局
- 障害のある方や子ども達に夢や希望を与えたい
- 自分の歴史について、歴史民俗資料館で考えてみた。
- ピラミッドのようにキラキラと輝いた夢は名取の歴史へと繋がり、私の願いが叶った
- ロボだけど、ロボだけではない?! 仙台高専ロボティクスコース
- 未来を生き抜く力を身につける！仙台高専ロボティクスコース

名取市協働提案事業「地域ライター講座」完成記事を発表します！

更新日：2022年2月24日

地域ライター講座 in 名取

令和3年7月から開講した「地域ライター講座」。

講座でライティングと写真撮影を学んだ受講生たちは、その成果を生かしての取材活動を行い、素晴らしい記事を完成させました。

数々の“なとりの魅力”が詰まった珠玉の記事たちです。ぜひ読んでお楽しみください。

受講者取材記事

- 外壁一面の森高千里の写真、謎のたこ焼き店主の正体に迫る！
ライター：寺嶋 雅子
- 好きな事なら前進あるのみ。「森高千里同好会東北本部」はそんな仲間の集える場所でした
ライター：宇佐美 久夫
- 未来を生き抜く力を身につける！仙台高専ロボティクスコース
ライター：小野 飛鳥

宮城県NPO等の絆力を活かした復興支援事業(マッチング・交流事業)

本事業は宮城県の委託事業で、(特活)社の伝言板ゆるるを代表団体とする、(特活)にじいろクレヨン、(一社)気仙沼まちづくり支援センター、地星社の4団体のグループで受託して実施したものである。

レクチャーとワークを交えながら、個人と組織の成長を振り返るとともに地域と団体のこれからを担う人材育成と地域での連携の可能性について意見交換を行った。

(担当:布田)

| 内容 | 開催日 | 開催地 |
|---|-------|------|
| 絆力交流会「人と組織の成長を考える ～地域における連携の可能性～」石巻交流会 | 1月26日 | 石巻市 |
| 絆力交流会「人と組織の成長を考える ～地域における連携の可能性～」気仙沼交流会 | 1月31日 | 気仙沼市 |
| 宮城県NPO等の絆力を活かした復興支援事業成果報告会および仙台・仙南地域交流会 | 2月16日 | 仙台市 |

いわぬま創生ラボ

既存のコミュニティに捉われない新たなコミュニティの構築を目的とし、様々な立場の住民を交えたワークショップ「いわぬま創生ラボ」の実施にあたり、グループファシリテーターとして協力した。
主催は岩沼市で、委託を受けて青年海外協力協会（JOCA東北）が企画・実施した。

| 内容 | 日程 | 担当 |
|------------------------------|--------|-------|
| 第1回WS 地域の課題、魅力、自分のやりたいことを考える | 11月14日 | 布田 |
| 第2回WS ありたい地域の未来を言語化 | 12月12日 | 布田、赤川 |
| 第3回WS アクションプランの作成 | 1月16日 | 布田、赤川 |
| 第4回WS プランのブラッシュアップ | 3月5日 | 布田、赤川 |
| 第5回 発表会 | 3月13日 | 布田、赤川 |



第2回WSの様子

かく大學

角田市が主催する、自分と地域を見つめながらマイプロジェクトをつくっていくプログラム「かく大學」において、協力団体として講座の実施に協力した。

| 内容 | 開催日 | 担当 |
|--------------------|--------|----|
| かく大學オープンキャンパス | 8月29日 | 布田 |
| 第1回 開校式「初めての顔合わせ」 | 9月26日 | 赤川 |
| 第2回「こうしたい、こうできたら」 | 10月31日 | 赤川 |
| 第3回「小さなアクションを考える」 | 11月28日 | 赤川 |
| 第4回「やってみた、行ってきた」 | 12月26日 | 赤川 |
| 第5回「共感を呼ぶ言葉を考えよう」 | 1月30日 | 赤川 |
| 第6回 最終発表会「半年間の集大成」 | 2月23日 | 赤川 |

講師派遣等

| 内容 | 主催 | 実施日 | 担当 |
|-------------|---------------|--------|----|
| 米山公民館職員研修 | 西野コミュニティ運営協議会 | 12月22日 | 赤川 |
| 角田市地域婦人会研修会 | 角田市地域婦人会 | 3月10日 | 赤川 |

各種委員等

岩沼市市民活動助成審査会委員、宮城県民間非営利活動促進委員委員会委員を務めた。

(担当: 布田)

ネットワークへの参加

被災三県の中間支援NPOのネットワークであるNPOサポートリンクに参加し、会議や勉強会に出席した。

(担当: 布田)

原稿執筆

大阪ボランティア協会が発行する市民活動情報誌『ウォロ』2022年2・3月号の「被災地の今」の原稿を執筆した。

(担当: 布田)

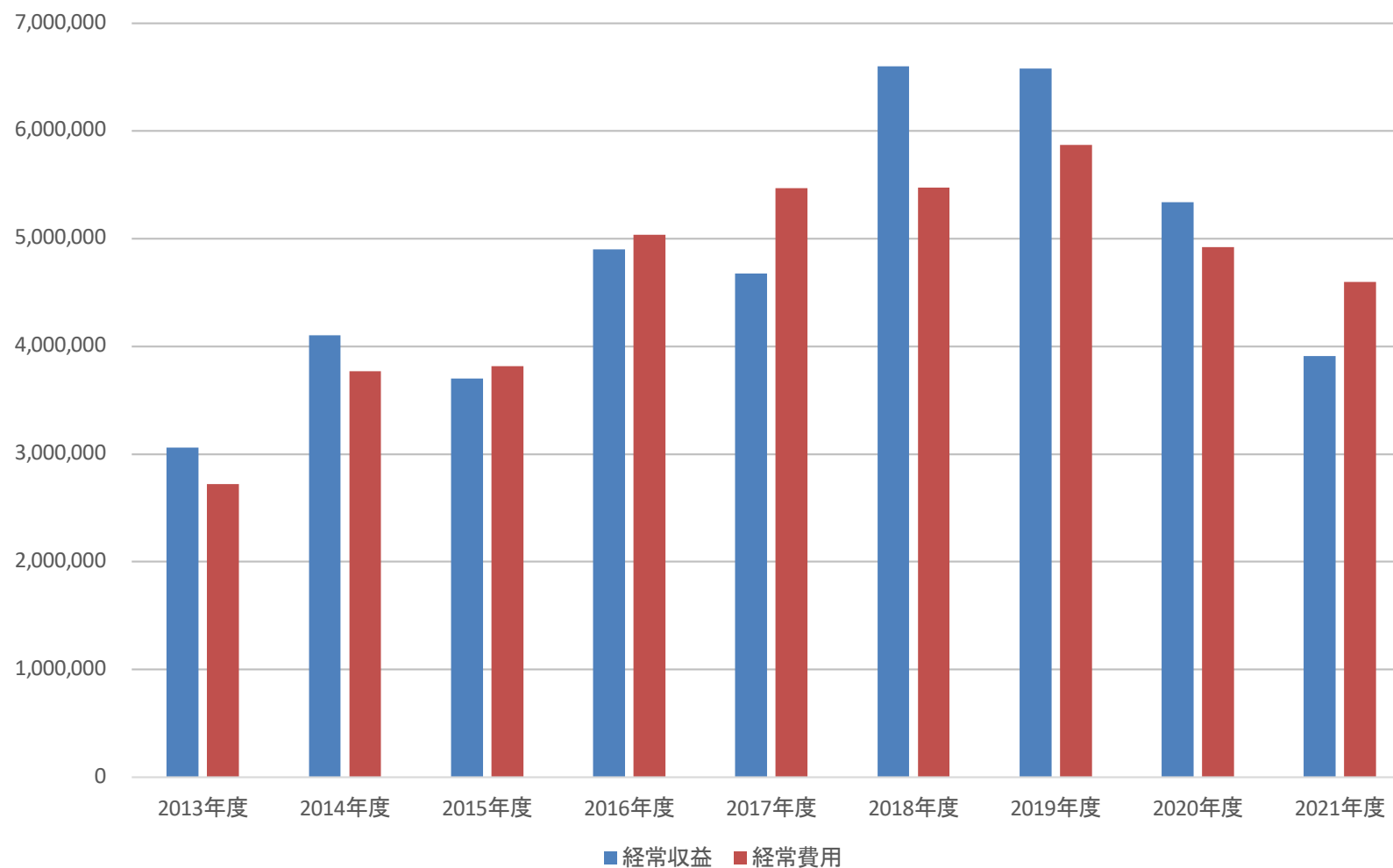
会議の開催／監査の実施

| 実施日 | 会議 | 主な議題 | 出席者 | 会場／実施方法 |
|-------|-----|----------------------------------|---------------------------|---------|
| 4月15日 | 理事会 | 役員報酬、事業についての意見交換 | 理事4名、監事2名、スタッフ1名、オブザーバー2名 | Zoom |
| 5月27日 | 理事会 | 総会へ向けた準備の状況について | 理事4名、オブザーバー2名 | Zoom |
| 6月5日 | 監査 | | 理事1名、監事2名 | Zoom |
| 6月17日 | 理事会 | 総会に付議すべき事項 | 理事4名、オブザーバー2名 | Zoom |
| 6月27日 | 総会 | 事業報告・決算の承認、事業計画・予算の報告、役員を選任、意見交換 | 正会員12名、賛助会員個人1名 | Zoom |
| 7月15日 | 理事会 | 代表理事・副代表理事の互選 | 理事4名 | Zoom |
| 8月19日 | 理事会 | 今後の事業の方向性 | 理事4名、監事1名 | Zoom |
| 9月16日 | 理事会 | 今後のビジョンについて | 理事4名、監事1名、スタッフ1名 | Zoom |
| 3月21日 | 理事会 | 理事の増員について | 理事4名、監事2名、スタッフ1名 | Zoom |

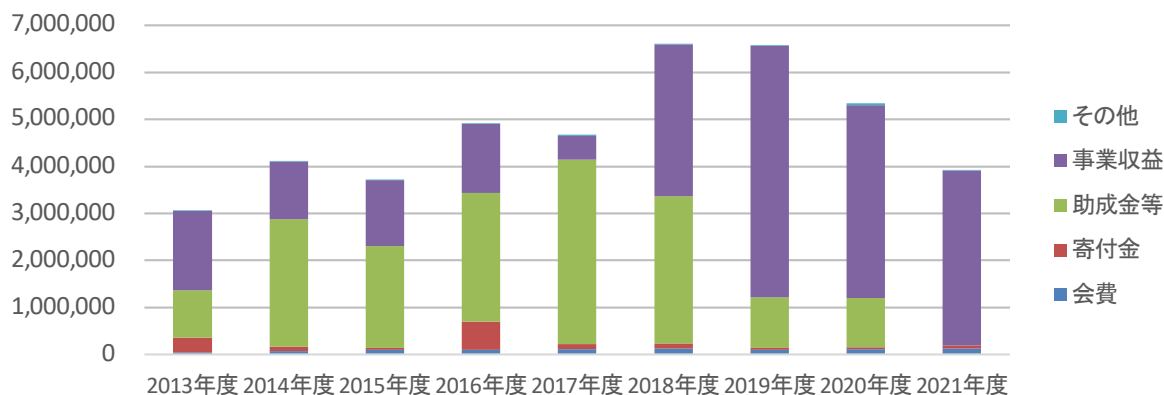
中期ビジョンの策定

年度内に議論が進まず、次年度へ持ち越しとなった。

収益が大きく落ち込んだことで、約70万円の赤字となりました。



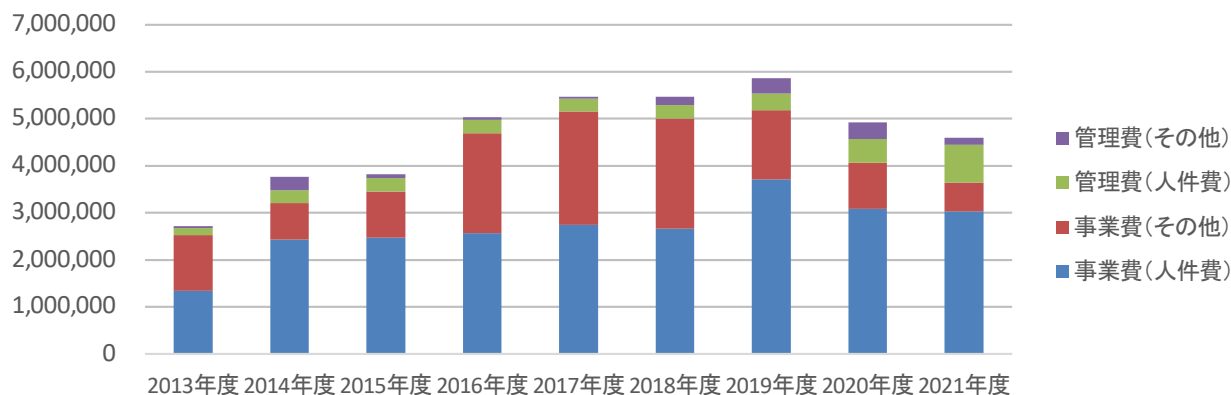
設立以来初めて助成金・補助金の収入がゼロになりました。



経常収益の推移

助成金・補助金の占める割合は少なくなってきていたが、設立以来初めてゼロとなった。ただし、名取市協働提案事業の業務委託費は、性質的には補助金に近いものである。

名取市協働提案事業の支出が収入を大きく上回ったことや、当初協力団体として参加する予定だった事業がなくなったことなどが、赤字の要因となった。



経常費用の推移

多くの方のご協力により、事業を進めることができました。改めて御礼を申し上げます。

謝辞

「地域ライター講座 in 名取」は、名取市協働提案事業の採択を受けて実施しました。

資金支援のほか、21年度も連携団体や会員のみなさま、多くの協力者の参加や協力によって事業を実施し、成果を収めることができました。

みなさまからのあたたかいご支援に対し、心より感謝を申し上げます。

ご寄付のお願い

地星社への引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。なお、地星社への寄付は寄付金控除の対象となります。

| 寄付金受入口座 | |
|--|-------------------------|
| 金融機関 | ゆうちょ銀行 二二九(二ニキュウ)店(229) |
| 口座名義 | 特定非営利活動法人地星社 |
| フリガナ | トクヒ)チセイシャ |
| 種別／口座番号 | 当座 0112957 |
| * ゆうちょ銀行からは「02220-3-112957」にお振り込みください。 | |

| | |
|------|--|
| 名称 | 特定非営利活動法人 地星社 |
| 法人設立 | 2013年3月1日（任意団体設立 2012年9月1日） |
| 所在地 | 宮城県名取市大手町5-6-1 |
| 役員 | 理事：布田剛（代表）、菊池遼（副代表）、 木村一也、谷津智里 監事：石山由美子、高橋陽佑 |
| スタッフ | 常勤：布田剛 非常勤：赤川泉美 |
| 会員数 | 正会員13名、準会員（賛助会員）10名、3団体 |
| URL | https://chiseisha.org |
| メール | office@chiseisha.org |

（2022年3月31日現在）